

## 令和 8 年 3 月期 中間決算概要（連結）

### 1. 中間決算実績及び通期見込

表の右側の丸囲み番号について、2 ページ以降に解説を記載しています。

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R7年度 上期実績	R6年度 上期実績	増減		R7年度 通期見込 ※1	R6年度 通期実績	増減	
営業収益	高速道路事業	5,355	4,810	545		12,624	11,975	648	
	料金収入	4,049	3,954	94	①	8,030	7,801	228	⑪
	道路資産完成高	1,287	837	449	②	4,553	4,131	421	⑫
	その他	18	17	1		41	42	▲1	
	関連事業	232	204	27		525	481	43	
	S A・P A 事業	176	167	9	⑦	350	331	19	⑰
	その他の事業	55	37	18		174	150	24	
計		5,588	5,014	573		13,149	12,457	692	
営業費用	高速道路事業	5,209	4,653	556		12,660	11,966	693	
	道路資産賃借料	2,851	2,787	64	④	5,727	5,554	173	⑭
	道路資産完成原価	1,287	837	449	③	4,553	4,131	421	⑬
	管理費用	1,071	1,028	42	⑤	2,379	2,280	98	⑮
	関連事業	205	175	29		470	421	48	
	S A・P A 事業	152	139	12		304	279	25	
	その他の事業	53	36	16		165	142	23	
計		5,415	4,828	586		13,130	12,388	741	
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	145	157	▲11	⑥	▲35	8	▲44	⑯
	関連事業	26	28	▲2	⑨	55	59	▲4	⑲
	(うち S A・P A 事業)	24	27	▲3	⑧	46	52	▲6	⑱
計		172	185	▲13		19	68	▲48	
経常利益		211	204	6		75	111	▲36	
中間（当期）純利益※2		162	147	14	⑩	57	91	▲33	⑳

※1 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※2 「中間（当期）純利益」には、「親会社株主に帰属する中間（当期）純利益」を記載しています。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分		主要内容
高速道路事業		高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	S A・P A 事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラクターミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

## 2. 中間決算実績の解説

### (1) 高速道路事業

- ① 管内の高速道路の通行台数は、対前年同期 2.5%増の 314 万台／日となり、料金収入は、対前年同期 94 億円 (2.4%) 増の 4,049 億円となりました。
- ②③ 道路資産完成高及び道路資産完成原価は、E78 東九州自動車道 (隼人道路) の 4 車線化事業の完成などがあり、対前年同期 449 億円増の 1,287 億円となりました。  
なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構 (以下「高速道路機構」といいます。) に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。
- ④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前年同期 64 億円増の 2,851 億円となりました。
- ⑤ 管理費用は、物価変動 (労務費等) の増加等により、対前年同期 42 億円増の 1,071 億円となりました。
- ⑥ 高速道路事業の営業利益は、対前年同期 11 億円減の 145 億円となりました。

※冬季における交通を確保するための雪氷対策や維持修繕関係工事の完成が下期に多いことから、高速道路事業の営業利益は下期と比較して上期が大きくなります。

### (2) 関連事業

- ⑦ S A・P A の飲食物販店舗売上高は、対前年同期 23 億円 (4.5%) 増の 540 億円となり、S A・P A 事業の営業収益は、対前年同期 9 億円増の 176 億円となりました。
- ⑧⑨ S A・P A 事業の営業利益は、店舗改良に伴う撤去費等の増加により、対前年同期 3 億円減の 24 億円、関連事業全体では対前年同期 2 億円減の 26 億円となりました。

### (3) 全事業

- ⑩ 中間純利益は、対前年同期 14 億円増の 162 億円となりました。

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

### 3. 通期見込の解説

#### (1) 高速道路事業

- ⑪ 料金収入は、前期に比べて交通量の増加が見込まれ、対前期 228 億円（2.9%）増の 8,030 億円となる見込みです。
- ⑫⑬ 道路資産完成高及び道路資産完成原価は、対前期 421 億円増の 4,553 億円となる見込みです。
- ⑭ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 173 億円増の 5,727 億円となる見込みです。
- ⑮ 管理費用は、前期に比べて、外注費（労務費及び補修数量等）の増加等を見込んでおり、対前期 98 億円増の 2,379 億円となる見込みです。
- ⑯ 高速道路事業の営業利益（▲損失）は、対前期 44 億円減の▲35 億円となる見込みです。

#### (2) 関連事業

- ⑰ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前期 50 億円（4.9%）増の 1,068 億円を見込んでおり、S A・P A事業の営業収益は、対前期 19 億円増の 350 億円となる見込みです。
- ⑱⑲ S A・P A事業の営業利益は、対前期 6 億円減の 46 億円、関連事業全体では、対前期 4 億円減の 55 億円となる見込みです。

#### (3) 全事業

- ⑳ 当期純利益は、対前期 33 億円減の 57 億円となる見込みです。

# 【参考】 個別決算実績及び通期見込

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R7年度 上期実績	R6年度 上期実績	R7年度 通期見込 ※	R6年度 通期実績
営業収益	高速道路事業	5,344	4,800	12,594	11,944
	料金収入	4,050	3,956	8,032	7,803
	道路資産完成高	1,287	837	4,553	4,131
	その他	6	6	9	9
	関連事業	94	78	236	215
	S A・P A事業	58	57	115	112
	その他の事業	36	21	121	103
	計	5,439	4,878	12,831	12,160
営業費用	高速道路事業	5,190	4,631	12,631	11,956
	道路資産賃借料	2,851	2,787	5,727	5,554
	道路資産完成原価	1,287	837	4,553	4,131
	管理費用	1,051	1,006	2,350	2,270
	関連事業	92	70	228	201
	S A・P A事業	57	49	109	98
	その他の事業	34	20	118	102
	計	5,282	4,701	12,859	12,157
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	154	168	▲36	▲11
	関連事業	2	8	8	14
	計	156	176	▲27	2
経常利益		218	217	46	63
中間（当期）純利益		168	161	40	59

※ 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。